

# KAIKE PRESS

皆生温泉のこれからを伝えるメディア  
「カイケプレス」

2023 Nov. 20

第20号／令和5年11月30日発行



## 特集 見て、考え、語り、進んでいく。 楽しいまちを『妄想』し『自分事』になる 皆生温泉のまちづくり!!



小さなお子さんももちろん参加OK!  
恐竜も歩けるまちいいね(^^)

2021年8月、皆生温泉エリアの魅力を高め、宿泊客だけでなく地域住民や日帰り観光客にも愛される温泉地をめざしていくため、民間も行政も連携した組織として設立した「皆生温泉エリア経営実行委員会」。2023年11月現在、2年強の間で行ってきた取り組みは、多岐にわたります。日帰り駐車場の不足問題を解決していくためにはakippaさんと連携し130台の駐車場を確保しました。未利用地を有効活用していくためには「ぐるぐるかいけ」や「水一広場」などの実験を行っています。それらの取り組みを更に持続可能にしていくための人材発掘も「エリアデザインスクール」などで行っています。「空き物件ツアー」の効果もあり、新たな出店にもつながってきました。

このように様々な取り組みが、約2年の間に生まれてきた背景には、実行委員会設立当初から関わる皆が意識してきた姿勢があります。それは『妄想』して動いてみるという姿勢です。

その姿勢は、2023年11月18日、エリア経営

実行委員会で主催した『ペちゃくちゃかいけ』の井戸端会議スタイルにもしっかりと現れています。この日、井戸端会議の中心に据えられたのは、未来の楽しい皆生温泉の姿を表現した4mもの大きな『妄想模型』。それを囲んで、集まつた皆が「自分はこんなお店が欲しいな!」「松林でこんなことができたら楽しいんじゃない!?」など、新しい妄想をさらに模型へ書き込んでいきます。計画ではなく妄想だからこそ、新たに参加した人も、誰でも案を出し盛り上がりでいるのです。



砂浜から海へ伸びる桟橋も  
これまでの妄想で実際に案を  
基に模型化

こうしたワークショップスタイルは、委員会設立当初から続けており、この妄想模型は様々な人の様々な案を吸収しながら育ってきました。妄想模型を実際に作っている株式会社設計領域の山田幸長さんは「皆生温泉の取り組みではじめに作ったのはもっと大まかにまちを捉えた1/600の模型でした。それで当初ワークショップをした際に〈日帰り駐車場に困っているけど、以外と有効に使えていない駐

車場が多いよね…だったら…〉と現在のakippaの取り組みにつながりました。その後も模型を見た人が、自分が本当に欲しいものを妄想して、案を出してくれる。誰もが‘主觀’で考えるから、突拍子もないものも出てくる。それをまた模型の中に表現していく。妄想模型は本当に楽しそうなまちになっていっています。少しずつでもみんなの妄想がかたちになっていくことで、まちが変わっていくとわくわくしますね。」とうれしそうに語ります。

実行委員会の活動は、これからもまだまだ続きます。その活動は、地域のみなさんの「自分はまちにこんなものが欲しい!!」という妄想が原動力です!!また次のワークショップの機会や、イベントの機会などには、ぜひぜひご参加いただいて『妄想』お聞かせくださいませ!!



女子高生からの意見も次々と飛び出しました!!

### きてみてカイケ



### カイケエリアデザインスクール 後期募集は年明けから!!

後期は1月から年度末にかけて「SNSでの伝え方・届け方」をテーマに「つたえるスクール」を開催予定です。詳細が決まり次第、カイケプレスやカイケラボHPでご案内いたします!!

写真はこれまでのスクールの様子。  
「つたえるスクール」もきっと楽しくなりますよ~(^^♪

### 水一広場1月開催!! スイッチ新年会

日時:1月10日(水)17:30~20:00 場所: 観光センター1階フロア  
1月の水一広場は、観光センターで新年会を開催します!新しい年の節目に、これから皆生について食べたり飲んだりしながら語り合い、交流を楽しみましょう!



写真は2023年2月のスイッチ広場。こんな感じで楽しく皆生温泉に関わってみましょ~!!

## 隔月連載コラム

「孫さん、  
ウェルビーイングって何ですか？」

## 「銭湯」が地域の ウェルビーイングに果たす役割

前回のコラムで「地域のウェルビーイング」を高めるには「ゆるいつながり」や「寛容性」が大事だという話を紹介しました。私が東京の下町エリア「谷根千(やねせん)」(谷中・根津・千駄木)でフィールドワークをしたとき、まさに地域の「ゆるいつながり」を象徴するような話を聞きました。それは「銭湯」です。その地域に詳しい女性が「地域から銭湯が無くなると、人々の生活に大きな影響がある」というのです。今では谷根千地域には銭湯が数軒しか残っていませんが、最盛期の1960~70年代には100軒近くの銭湯があったそうです。当時は自宅に風呂がない人も多く、たいていの家から歩いて数分のところに銭湯があったようです。そこでは、さまざまな交流やコミュニケーションがおこっています。

ました。

私たちの研究グループが、銭湯に長年通い続けているという地元の女性たちにインタビューした際、銭湯では「背中の流し合いコミュニケーション」があるという話を聞きました。銭湯の常連さんだと、新顔の人が入ってきたとき、その人の雰囲気をみて、「背中流しましょうか」と声をかける。そこからいろんな世間話をして人の輪ができるんだそうです。その方は「背中を見ると、声をかけてほしい人かどうか、だいたい分かる」とおっしゃっていました。まさに「裸の付き合い」と言えるでしょう。その他にも、銭湯では多世代交流や親子支援のようなことも起きています。若いお母さんが赤ちゃんや子供と一緒に銭湯に来ると、常連の女性が子供の面倒を見て、その間にゆっくりお母さんにくつろいでもらったりしたそうです。また、そうした中

で育児などの相談に乗ってもらうこともでき、子育てサポートの場としても銭湯が大きな役割を果たしていました。

銭湯のように地域の人々がゆるくつながれて、多様な形のつながりが生まれる場というものは地域においてとても重要です。「サードプレイス」という言葉もありますが、たまり場のように人々がゆるく集まって交流できる場が、地域のウェルビーイングを高めると考えられます。皆さんのがんばっている地域にはそのような場所があるでしょうか。私は、町のカフェでゆっくり珈琲を飲みながら過ごすのが好きなのですが、お店によくは店主や他のお客様と話がはずむようなところがあります。そういうお店は地域の人の交流の場となっていることが多く、まさに「銭湯」のような場として機能しているのでしょうか。

孫大輔 家庭医(総合診療医)/鳥取大学医学部地域医療学講座講師

## エリア経営だより

このコーナーでは、毎月の「皆生温泉エリア経営実行委員会」定例会の内容を一部お伝えしていきます!  
まだまだ未定のこぼれ話も楽しんでくださいませ!!

《 今日は11月1日13:00～開催された定例会より 》

## 令和6～7年度事業について 取り組むべき事業を協議

皆生温泉エリア経営実行委員会がスタートして本年8月で丸2年間。さまざまな取組を力強く進めてきた。一方で、令和6年度以降のまちづくりを見据え、活動がはじまったかいけラボ。令和6年度以降の皆生温泉エリア経営実行委員会の役割や、かいけラボ共同事業体によるエリアマネジメント事業の実施など具体的検討を進めました。



写真は今年開催した空き物件ツアー(左)と夜開催も試みたぐるぐるかいけ。来年度以降に向けて見つめなおしたり、再考したり!!

## 連載インタビュー

## カイケを動かす人

皆生温泉エリアで活躍する様々な人へ  
インタビューをしています。今月は、  
皆生温泉エリアにあるケーキ屋さん  
**NiCO sweets**  
オーナー・新田孝一さん  
にご協力いただきました!!



Q:まず最初に、ご自身について教えていただけますか?

新田さん:私は、3歳頃～18歳まで皆生温泉エリアに住んでいました、その後、就職で県外へ。就職先は洋菓子店とは全く関係のない業種の会社です。それから3年間働いていたのですが、手に職をつけた職人のような仕事ができたらと思い、「洋菓子の世界」へ踏み入れたんです。それをきっかけに、米子に戻ってきました。

Q:洋菓子が好きだったとか、料理が得意とか、その道に進もうと思われたのですか?

新田さん:料理をすることは元々好きでしたし、やっていましたが、洋菓子作りはまったく。でも、ケーキ屋さんになろうって思ったんですよね(笑)

Q:その時の思いが、今こうやって道を拓いたんですね。

新田さん:そうですね!会社を辞めて新しい世界に踏み入れたことも、振り返れば、その決断が今の私の人生を築いたのですから。

(つづきはwebへ)

